

「明石市子ども・若者計画（素案）」への意見公募の結果について

2026年（令和8年）1月16日（金）から2026年（令和8年）2月16日（月）まで行った意見公募結果について、以下のとおりお知らせします。

1 募集結果

募集期間中、6名の方から計8件のご意見をいただきました。

2 意見概要と市の考え方

提出いただいた意見の概要とこれに対する市の考え方は以下のとおりです。
なお、いただいたご意見は、趣旨を損なわないように要約しています。

No.	意見の概要	市の考え方
1	<p>5ページ</p> <p>明石の有名な食べ物として明石焼きなどがよく挙げられ、それに関連して海の幸として明石ダコや明石鯛などが強いイメージとしてありますがそれ以外にも強烈なイメージに埋れてしまっている海産物というのは明石にも多く有るようになってきます。須磨シーワールドのようにはいかないかもしれませんが「小さな水族館」という意見には深く賛同します。海産物として忘れてはならないのがノリです。明石のりは明石海峡の激しい潮流に影響を受け質の高いものが取れることで有名で人気も高く今年を除いては兵庫全体として生産量は3年連続日本一を記録しています。有明海、佐賀や福岡、熊本より兵庫なのは漁連でも昨年度話題になっていました。それを支えているのは林崎の漁港や明石浦の養殖です。これらをもっとアピール出来ればと本当に一部で意見を述べますが思ったところです。</p>	<p>本市の豊かな海や自然環境、そこで育まれたタイ、タコ、ノリに代表される明石の特産物は重要な地域資源であり、明石焼きやタコ飯に代表される明石らしい郷土料理や文化として伝承されてきました。料理や文化のように明石に限られる体験、これからも人をひきつけてやまない明石の魅力の発信や次世代への継承は重要な取り組みであると認識しています。</p> <p>私たちみんなが受け継いだ自然の豊かさやその環境で育まれてきた明石の魅力をさら次の世代へ「明石のたからもの」として円滑に引き継ぐことができるように、みんなで気持ちを合わせながらみんなで参画できる仕組みをみんなで考えつつ、これからも関係機関等と連携しながら、地域資源の価値をうまく使えるように努めるとともに、子ども・若者が明石の特産物への理解を深める機会の創出についても検討していきます。</p>
2	<p>9ページ</p> <p>「柱2」の人と人がつながれて、笑顔で、時に逃げられる居場所づくりという施策に賛同いたします。自分が中高生の時はそういった場所がなく、居場所といえば学校や家、塾しかなかったからです。今の世代の若者たちにはそういった居場所（家や学校以外の場所）は今後とくに必要になってくると思います。特に、数年後には、中学の部活の地域移行も始まることで早急に解決すべき問題のように思える。また、今現在、東と西に2か所若者向けの居場所はあるものの、まだ多くの若者には周知されていないように思います。もう少し、市や教育機関と連携をとることで、多くの若者に知られるようになっていく必要があると思います。</p>	<p>子ども・若者が安心して過ごし、自らの成長や交流につなげることができる居場所の充実は重要であると認識しています。</p> <p>今後も関係機関等と連携しながら、地域全体で子ども・若者を支える体制づくりに努めていきます。</p> <p>また、子ども・若者の居場所の情報が届くよう、周知や情報発信の充実にも努めていきます。</p>

3	西部図書館をよく利用しているのですが、明石駅の図書館と同様に西部図書館にも Wi-Fi を設備していただきたいです。	図書館をはじめとする公共施設の環境整備については、利用状況やニーズ等を踏まえながら利用しやすい環境づくりを検討していきます。 なお、ご意見の西部図書館では Wi-Fi 環境を整備済みとなっていますが、サービス認知度を高めるため、館内での案内を増やすなどの周知を図っていきます。
4	勤労学生に対する減税や援助を手厚くしてほしいです。通学定期、通信費などサポートがあると助かります。	こども・若者が安心して学びや活動を続けられるよう、支援制度の充実や周知に努めるとともに、支援の在り方についても検討していきます。
5	西明石駅内の電波が悪いと感じることが多いので改善していただけるとありがたいです。	西明石駅構内の通信環境について、JR 西日本に問合せしたところ、駅の通信環境については、各通信事業者等が整備し、必要に応じて順次機器の取り替えや設置を進めているとのことでした。
6	素案でも子どもや若者が孤独感に悩んでいるということが分かったので、そういった感情に苛まれたときに気軽に寄ることができる施設や食堂があればよいと感じた。私自身最近まで中高生だったこともあり、家でもなく学校とのつながりが少ないような場所や家族でない大人の人々に関われる場所が学生時代にあればよかったと思う。彼らが学校というコミュニティが全てではないと思いい、たくさん大人に大切にされていると気づける場所であってほしい。具体的にはその場所での過ごし方は自由であることや、夜遅くまで居られることや、子どもの意見や考え方が否定されないことがないような場所であればよいと思う。	こども・若者が孤立することなく、安心して過ごせる環境の整備は重要であると考えています。 本市では、こども食堂や居場所づくりなどの取り組みを通じて、こども・若者が安心して過ごせる居場所の確保を進めています。 今後も、こども・若者の声を聴きながら、安心して自分らしく過ごせる環境づくりに努めていきます。
7	子ども・若者の声を中心に据えていることは、これからの未来で主となっていく世代であるため、とても良い考えだと思う。子ども若者が単なる「支援の対象」としてではなく、「主体」として位置づけていることが表れており、先進的な取り組みであると感じた。「安全」「居場所」「意見を伝える仕組み」という整理も分かりやすく示されていた。懸念点としては、声を出しにくい子どもや若者の意見をどう拾うかを具体的に示す必要があると思う。方向性はとても良いため、「どう実行し、どう検証するか」をより具体的にすると、実効性が高まるのではないかと考える。	本計画では、こども・若者を主体とした施策展開を基本としています。 今後も、対話の場やこども・若者会議など、さまざまな方法により意見聴取の機会をしっかりと創っていきます。 また、声を出しにくいこども・若者の思いについても丁寧を受け止められるよう、学校や関係機関等と連携しながら、意見を把握する取り組みを進めていくとともに、こども・若者目線の「ウェルビーイング指標」を新たに据え、施策の状況を検証していきます。
8	アンケートや会議で出された意見が明石の具体的な施策として提案されており、よいと思いました。特に「安全・安心なまちづくり」という点で、私自身も夜道の暗さや横断歩道の少なさから、信号のないところでわたる人の多さを実感していたため、具体的な案が出されていて安心しました。また、学習支援も行ってくれることが嬉しかったです。図書館などは閉館が早かったり、自習スペースでもなかなか静かな場所がすくなったりと集中して取り組める場所が少ないことから、より長時間の自習・作業スペースを設置してもらいたいと思いました。	安全・安心なまちづくりについては、関係機関等と連携しながら、地域の実情などを踏まえて改善していくことが重要であると考えています。 現在、本市では、中高生世代講習施設 AKASHI ユーススペースや、こども若者交流施設あかしユースポート、あかしこども広場（イコット）、明石市立二見図書館（ふたみん）などにおいて、自習スペースの提供を行っています。引き続き、こども・若者が安心して学習できる環境づくりを進めていくことに加え、今後も関係機関等と連携しながら、実情を踏まえた環境整備の充実を図っていきます。